

本文

【白文】

①孟嘗君、使下人抵昭王幸姫、求上解。姫曰、「願得君狐白裘」。蓋孟嘗君、嘗以獻昭王、無他裘矣。②客有下能為狗盜者上。入秦藏中、取裘以獻姫。姫為言、得積。即馳去、變姓名、夜半至函谷関。関法、鶏鳴方出客。③恐秦王後悔追之。客有下能為鶏鳴者上。鶏尽鳴。遂発伝出。食頃、④追者果至、而不レ及。

【書き下し文】

孟嘗君、人をして昭王の幸姫に抵りて解かんことを求めしむ。姫曰はく、「願はくは君の狐白裘を得ん。」と。蓋し孟嘗君、嘗て以て昭王に献じ、他の裘無し。客に能く狗盗を為す者有り。秦の藏中に入り、裘を取りて以て姫に献ず。姫為に言ひ、積さるるを得たり。即ち馳せ去り、姓名を変じ、夜半に函谷関に至る。関の法、鶏鳴きて方に客を出だす。秦王の後悔して之を追はんことを恐る。客に能く鶏鳴を為す者有り。鶏尽く鳴く。遂に伝を発して出づ。食頃にして、追ふ者果たして至るも、及ばず。

【語注】

- ・ 孟嘗君（もうしょうくん）…齊の公子。多くの食客を抱えたことで知られる。
- ・ 昭王（しょうおう）…秦の王。孟嘗君を招いたうえで囚え、殺そうとした。
- ・ 幸姫（こうぎ）…王に寵愛されている側女。
- ・ 狐白裘（こはくきゅう）…狐の脇の下の白い毛だけを集めて作った最高級の皮ごろも。
- ・ 狗盗（くとう）…犬のように忍び込んで盗みをはたらくこと。また、その者。
- ・ 函谷関（かんこくかん）…秦の東の関所。
- ・ 伝（でん）…関所の通行を許す割り符・手形。
- ・ 食頃（しょくけい）…食事をするほどのわずかな時間。

設問

- 傍線部①「孟嘗君、使人抵昭王幸姫求解。」を書き下し文に改めよ。
- 問1の「使人」について、ここで用いられている句法の名称を答えよ。また、この句法の意味（用法）を簡潔に説明せよ。
 - 句法の名称
 - 意味（用法）
- 「願得君狐白裘。」を現代語訳せよ。
- 「狐白裘」とはどのようなものか。本文の語注をふまえて簡潔に説明せよ。
- 幸姫はなぜ孟嘗君に「狐白裘」を求めたのか。その狙い（孟嘗君が幸姫に何を頼んだのか）をふまえて説明せよ。
- 「蓋孟嘗君、嘗以獻昭王、無他裘矣。」とあるが、孟嘗君が幸姫の要求にすぐ応じられなかったのはなぜか。理由を説明せよ。
- 傍線部②「客有能為狗盜者。」を現代語訳せよ。
- 「姫為言、得積。」とあるが、(ア)「為」は誰のためか、(イ)「積さるる」とはどうなったことか、それぞれ答えよ。
 - (ア)「為」は誰のためか
 - (イ)「積さるる」とはどうなったことか
- 「即馳去、変姓名、夜半至函谷関。」を現代語訳せよ。
- 「関法、鶏鳴方出客。」とは、函谷関のどのような決まりを述べたものか。説明せよ。
- 傍線部③「恐秦王後悔追之。」を書き下し文に改めよ。
- 問11「恐秦王後悔追之」を現代語訳せよ。
- 「客有能為鶏鳴者。」の食客は、孟嘗君を救うために何をしたか。本文に即して説明せよ。
- 「鶏尽鳴。」の結果、孟嘗君一行にとってどのような事態が生じたか。「関の法」と関連づけて説明せよ。
- 「遂発伝出。」の「伝」とは何か。本文の語注をふまえて答えよ。
- 傍線部④「追者果至、而不及。」を現代語訳せよ。

17. 「狗盗を為す者」は、孟嘗君を救うために具体的に何をしたか。本文に即して説明せよ。
18. 本文には、孟嘗君を救った二人の食客が登場する。それぞれがどのような技能で、どの場面で主君を救ったかを、二人を対比してまとめよ。
19. 故事成語「鶏鳴狗盗」の意味を答えよ。
20. 「鶏鳴狗盗」の出典（書名・篇名）を答えよ。
21. 「鶏鳴狗盗」の故事から導かれる教訓として最も適切なものを、次のア～エから一つ選べ。
 - ア 立派な人物は、つまらない人間とは決して交わらないものだ。
 - イ どんなにつまらなく見える技能でも、時として大いに役立つことがある。
 - ウ 盗みや偽りは、たとえ主君のためであっても許されない。
 - エ 大人数の食客を抱えることは、かえって身を滅ぼすもとである。